



1. 正面入口
2. 表門
3. 石敷
4. 主庭
5. 番人部屋
6. 物置
7. 倉庫
8. 女中部屋
9. 台所
10. 土間通路
11. 六畳
12. 内玄関
13. 寄付
14. 式玄関
15. 取次の間
16. 供待ち
17. 縁側
18. 入側
19. 和室八畳
20. 客座敷十畳
21. 上段の間
22. 納戸
23. 廊下
24. 縁先水鉢
25. 貴人用浴室
26. 貴人用便所
27. 中庭
28. 離れ座敷和室六畳
29. 離れ座敷和室八畳
30. 裏門
31. 蔵
32. 井戸

この建物は客人を招くための別荘として建てられました。敷地は北側を正門に南へと細長く伸びた敷地です。主屋をもつ建物全体を南に配して門より主屋までは程よい距離で庭が続き、静寂さを感じつつ、建物に導かれるつくりとなっています。また建物は口字型の平面で敷地を有効に使っているのがわかります。庭と建物が一体をなして庭の石組みがしっかりしています。正門右側にある付属の足元の石積みの角が伸び石になって、建物のずれを防いでいます。また、門廻り石の接合部には亀甲型のダボ石を嵌め込むなど、高度な技術が使われています。門より主屋にいたるアプローチは右に付属屋を、左に庭を配し、来訪者の目を引き込むように緩やかなカーブがつけられ、表現力の高いつくりとなっています。そして、主屋の客迎玄関は二間幅で屋根は入母屋造りで、式台を設けた格式高いつくりです。縁板および段板に樺の長大な材料を使うなど、明治頃の大胆な材料の使われ方が見られます。玄関左手に丸窓の供待ちの意匠は近世にないもの、次の間、八畳と十畳は二間続きの和室で、幅二間半を二間の畳敷きで特注の畳が敷かれています。十畳間には床と床脇を構え、また庭の方に目を転じれば入側を二段に落して回遊式庭園を見渡せる工夫がなされています。また東側に廊下を挟んで来客用の便所と風呂が設けられ、往時の姿をとどめています。奥には上段の間をしつらえ、床・床脇・付書院をしつらえています。床の間の壁は袋張り表面に金粉をあしらった雲形の模様を施され、隅には本漆の四分一が打たれています。また襖絵は江戸時代の土佐派の画家藤原光浮の花絵が描かれ、より一層、気品を感じる座敷となっています。八畳・十畳、そして上段の間がこの建物の中心的な位置を締め、また使われている木材は松材の柱の部分で作り、飾り釘隠しを用いて良質な木材と質の高さが見とれます。近年このような木材を手に入れることは難しいです。

北の客迎玄関から西手に内玄関、六畳・台所の付属施設を設けて中庭に面した濡れ縁西側に浴室と便所が配されています。

中庭を挟んで、南側に家族のための二階建の離れがあります。一・二階とも六畳と八畳の和室で、いずれの八畳には床・床脇をしつらえています。特に二階八畳間には琵琶床を設けるなど、数寄屋の雰囲気はただよっています。また、床框は手の込んだ彫り物を用い、琵琶床天板および床脇違い欄板には、柄の縮み杓が使われています。天井板は山陰の肥松空板が使われるなど、近年では手に入らない材料が使われています。北・南側の廊下の欄干の意匠は一見、書院建築を思わせるが座敷の数寄屋との対比が面白いつくりとなっています。

大正15年に使われていた「現金酒之通」。現在の領収書台帳。大塚町 筒井家所蔵



別邸平面図



酒造業時代の明治～大正時代に使われていた一升徳利。「小河商店」と焼き込んである。当時の丹波焼製。(現在の立杭焼)大塚町 筒井家所蔵。

